



## 札幌響くらぶ10周年

財団法人 札幌交響楽団

専務理事 西村 善信

札幌響くらぶ10周年、おめでとうございます。

オーケストラのファンクラブも様々な形があるようです。そのなかで、オーケストラファンクラブの組織化を進める札幌響くらぶの活動は頼もしい限りです。

札幌響は、1961年にメンバー50人でスタートし、78年には63人と拡大しました。その後、75人態勢を組み91年には4管編成90人態勢を目指す「札幌基金」づくりが本格化しました。

しかし、2002年秋には「札幌響、存続の危機」と報道された財政破たんがありました。単年度赤字が1億円を超え、累積赤字が5億6千万円に達していました。ここから、札幌響改革がはじまりました。楽団員たちには賃金カットなど大きな血を流しました。事務局員も全員交代しました。発足40年目の危機でした。そして、今はこれを乗り越えつつ地方オーケストラの役割を果たしています。

今年の定期演奏会では、札幌響の進歩を確認するための目印になる「ピーター・グライムズ」公演を行いました。40年ぶりのコンサートオペラでした。1年間かけて練習した合唱団、抜群の歌唱力の日本人ソリストたち、そしてオーケストラとすべて纏め上げた尾高音楽監督の力量が思う存分発揮された舞台でした。イギリスのブリテン財団から3人の方が来訪し舞台を見てくれました。記者会見で「すばらしい公演でした。泣いてしまいました」と語っていました。

2011年の創立50周年を迎えます。ヨーロッパ公演を考えていますが、「世界同時不況」でオーケストラをとりまく環境はとても悪くなっています。札幌響くらぶの皆さんのご支援とともに、50周年も乗り越えていきたいと考えています。

最後になりますが、札幌響くらぶのますますのご発展をお祈り申し上げます。